

## 令和2年度 学校経営について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月から臨時休業状態が続き、感染者の急激な拡大傾向に伴い、緊急事態宣言の発出並びに延長により5月末まで学校再開にいたりませんでした。

3か月にわたる休業状態からようやく教育活動が再開される運びとなりますが、感染拡大防止に配慮しながらの学校生活となります。従いまして、これまでとは異なる対応も必要とされる状況が多々あることが予想されます。様々な工夫や修正を迅速に進めることも大切になってきます。それだけに私たちは、教育公務員であることの自覚と職務に対する責任感のもと、次代を担う子どもたちの未来の可能性を広げ、子どもたち一人ひとりの自己肯定感を高めることができる学校組織をつくりあげることが重要です。

今年度の学校経営は、長期戦が予想される新型コロナウイルス感染拡大予防に配慮しながら、前年度の成果・課題をふまえ、子どもたちの学力保障を最優先課題として、昨年度策定した取り組みの継続を基本に展開していきます。以下にその具体的な内容を示します。

### 1 本校における学校経営の理念は、校訓である【明朗・勤勉・創意・工夫】です。

これを基本に令和2年度の学校教育目標は、生徒、保護者、地域にも十分な共有化を深めるためにも、昨年度から継続して、次の2つとします。1. 学力向上 2. 安心・安全な学校 です。

義務教育の目的は、次代を担う公民の育成であり「社会人として生きる基礎・基本の確立」です。

「明朗・勤勉・創意・工夫」の基本理念に基づき、生徒と生徒、生徒と教職員がともに距離の近い関係を築く、『温かい家庭的な学校づくり』をすすめていきます。あわせて、本校の実態をふまえて、全ての生徒、教職員にとって、『安心・安全な環境』の中で、全ての生徒が『居場所』のある学校づくりをめざします。本校の学校づくりのコンセプトを生徒、保護者、地域へ具体的に発信し、「チームすみれ」として、董中学校のプライドを大切にしてほしいと願っています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ソーシャル・ディスタンスをはじめとした新しい生活様式の考え方から、物理的な距離と発声に配慮しなければならない様々な状況が生じてきている今だからこそ、「心の距離感」を大切にしながら、董中学校の生徒の自己肯定感をさらに高めていくことが不可欠です。

### 2 教育目標を達成するため、平成28年度からICT活用事業モデル校をはじめとした様々な取組みが進められてきました。みなさんの高い職責の意識に基づくご尽力により、本校は安定した成熟期を超えて飛躍する転機を迎えていきます。本校の優れた文化・伝統を生徒とともに教職員のみなさんも継承していただくことが不可欠であると考えています。選択と集中に基づき、昨年度から進めてきた校務の負担のスリム化をはかりたいと考えています。教職員一人ひとりがポジティブに個々の強みを生かし、これからも「慣例・慣行」「前例主義」に囚われず、戦略的に取り組むことが求められています。

### 3 平成29年度より大阪市教育委員会から2つの「最重要目標」が示され、これをふまえて全市共通目標が設定されました。本校もこの全市共通目標に基づき、職務を遂行します。大阪市教育振興基本計画を基本に大阪市の教育施策を十分に理解し、常に「市民ファースト」の理念に基づき、具体的な方策に取り組みます。

大阪市の最重要課題でもあるいじめ・体罰・暴力行為の根絶に向けて、校長経営戦略予算を活用し、アンガーマネジメントに係る講座を実施します。アンガーマネジメントを校長経営戦略予算基本配布に組み込み、いじめ対策及び体罰・暴力行為の根絶に戦略的に取り組みとしたいと考えています。

4 以下は、大阪市の教育施策に基づく本校の学校経営に関する取り組みです。

[戦略的に取り組む最重要項目]

① 授業力の向上

冒頭にも述べましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3か月にわたり、教育活動が行われず、子どもたちの学力保障が喫緊の課題です。生徒一人ひとりの学力向上を実現するためには、授業力向上は不可欠です。とりわけ、今年度は、授業時数の確保が厳しい中で、授業内容の充実と合わせ、徹底した効率化が求められています。本来であれば、研究授業・研究協議を基本としたワークショップ形式の研修が理想的ですが、今年度は、授業観察とスクール形式の研修を実施することになります。指導教諭が中心となり、中堅教員へは授業力向上をテーマにした研修を実施します。若手教員へは、メンターから教員としての資質向上のために多角的な研修を実施します。それぞれの研修実施後には意見交流の中から教員の識見や手法を学び、授業力の向上を加速させていきたいと考えています。授業力向上は確実に学力の向上に繋がります。新学習指導要領の要旨をふまえ、「生徒が積極的に学び、生徒が意見を発表し、教えあい、学びを共有する授業」（主体的・対話的で深い学び）に積極的に取り組みたいところですが、今年度は、感染症拡大予防に配慮することを優先していきます。昨年度はICT活用拠点校として、タブレットをはじめとしたICT機器を効果的に活用した授業展開に積極的に取り組んでいただきました。今年度も、ICT活用拠点校となり、1. 毎日1回以上タブレットの活用 2. 年1回公開授業の実施 3. 実践事例の提供 が義務付けられています。今年度もタブレットをはじめとしたICT機器を効果的に活用した授業展開に積極的に取り組んでください。休業期間中に「Teams」による双方向通信にも積極的に取り組み、各家庭の通信環境の確認も少しずつ進んでいます。新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響から文部科学省が進めるGIGAスクール構想が加速し、今年度中にも生徒一人につき1台のPCの整備が進められています。従って、授業展開について、チョーク＆トークからの脱却は避けられないものと考えられます。カリキュラム・マネジメントにおいても重要な相互授業参観を積極的に行い、個々の授業力を向上させる必要があります。

② 道徳教育

今年度の教育目標でもある「安心・安全な学校」の実現は、「德育=心の教育」をめざした道徳の授業の充実が不可欠です。道徳の時間に道徳の授業を学校全体で組織的に取組み、基本的な道徳心や規範意識、社会で生きていく上で身につけておくべき普遍的な事柄について、本校在学中に習得してもらいたいと考えています。マナーをわきまえた公民の育成には不可欠です。

今年度より、「道徳」は特別な教科として教科書も配布されます。「道徳」の授業において未履修が発生しないよう、全教員による組織的・系統的な計画、実施をお願いします。「道徳」については、教科であるため、本校に限らず、安易な学級活動等への流用はありません。道徳教育の基本理念を理解し、子どもたちに「気づき」のある道徳としての授業展開を推進していきます。

③ 英語イノベーション

中学校卒業段階までに英検3級以上の英語力を有する生徒の割合は、令和元年度の大阪市の結果は文部科学省の求める50%を超えていました。昨年度本校3年生の英語力は、大阪市平均を遥かに上回っています。今年度も生徒の英語力強化をはかるとともに、英語科のみならず、様々な場面での英語教育を展開していくことが望まれます。

④ 体力・運動能の向上

集団育成の観点から、体育の授業での集団行動は重要です。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大予防のため、学校再開後、しばらくは、これまで通りの授業展開が難しい状況が継続すると予想されます。様々な制約がある中で、独創性の高い授業展開を通して、バランスのとれた体力・運動能力の向上が大切であると考えています。本校の生徒のポテンシャルは高いと実感しています。

体育科を中心に指導の工夫・改善を進め、文武両道に優れた生徒を育成したいと考えています。

##### ⑤ 自主学習習慣確立の取り組み

新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う休業措置延長により、3年生の中学校チャレンジテストは中止となりました。1・2年生については実施の予定です。各学年及びテストが実施される全教科の平均点が、大阪府の平均を上回ることができるよう、生徒一人ひとりの学力向上に取り組みます。学習データベースを積極的に活用し、自主学習習慣を定着させ、中学校チャレンジテスト結果向上に繋げていきたいと考えています。今年度は、経済産業省「先端的教育用ソフトウェア導入実証事業」に係るデジタルドリル教材活用実証校に選定されました。デジタル教材名は「ピタドリ」です。この教材の特徴は、「アダプティブラーニング」です。学習者に合わせて出題される問題のレベル並びに問題数が自動的に変わり、理解・定着に必要な問題を自動的に出題します。これは、2学期から導入されますが、自主学習習慣確立と合わせ理解度・定着度の確認が容易になり、学力向上に大きな効果が期待できると考えています。

##### ⑥ 食育の推進

昨年度から自校で調理された給食が提供されています。学力・体力の向上をはかるためにも食育の重要性がますます高まっています。本来、公立の学校はすべての子どもたちが平等な条件のもとで、教育活動が展開されなければなりません。給食は家庭環境による格差をつくらず、栄養バランス等を考えたものとして提供されています。そのためにも、食育の推進は重要な課題であると考えています。

今年度は、残食の減少が本校の重要な課題です。

#### [継続実施する項目]

##### ⑦ アンケート調査の実施

毎年、授業アンケート・保護者アンケート・体罰・暴言アンケート・いじめアンケートの4種類を実施します。

ア 全市一斉に実施・活用されている生徒の授業アンケート（12月）を実施し、経年比較を行う。

あわせて今年度の授業アンケートの目標数値を以下のように設定する。

1 9教科（国・社・数・理・英・音・美・保育・技家）※理解に着目

3学年9教科調査の9科全てで①+②の比率を80%以上、平均も80%以上を維持する。

2 学級 ※授業規律の項目を新設

生徒アンケート調査で、全ての学級で授業規律の肯定的生徒回答率で80%以上を維持する。

イ 保護者アンケートは、前年度と同じ形式を踏襲し、経年比較を行います。

ウ いじめアンケートについては、大阪市教育委員会からの指示により、いじめアンケートを各学期に実施します。あわせて、いじめアンケートに基づく情報から「いじめ防止対策委員会」を開催し、即時対応を基本とします。

エ 今年度も、アンガーマネジメントを校長経営戦略予算基本配布に組み込み、「いじめ」防止対策並びに体罰・暴力行為の根絶の一助にしたいと考えています。

##### ⑧ 学校元気アップ地域本部事業

今年度は、学校元気アップ地域コーディネーター担当者の異動により、本校の学校元気アップ地域本部事業の充実が期待できます。「地域の教育力の学校への導入」は将来を見越した学校運営の中で、非常に重要です。中学校が生徒と教職員だけではなく、地域のコミュニティセンター的な役割を担う時代が必ず来るものと考えられます。そのためにも、教職員が地域の学校に勤務しているという意識を持つことが重要になると考えています。4月から学校元気アップニュースも発行され、今年度は、図書館開放・放課後自習・テスト前対策について戦略的に取り組みます。ボランティアさんの協力を得ながら、学力向上をめざすことが大切であると考えています。元気アップ地域コーディネーターのご尽力により図書室の活用と放課後自主学習室、学習ボランティアを活用したテスト前学習会への取り組みをはじめ、漢字検定・英語検定実施のサポートなど新型コロナウイルス感染拡大予防に配慮しながら、実施内容の充実をはかります。

⑨ 図書館の機能向上並びに朝読書の実施（読書習慣の醸成）

図書館を学力向上戦略室として位置づけ、放課後の自主学習習慣を確立させるとともに読書習慣を醸成していきたいと考えています。今年度も、図書館補助員が配置され、図書館開放の時間を拡大し、学校元気アップ地域コーディネーターとの連携により、図書館の利用者の増加をはかっていきます。

図書館の機能向上のために、新型コロナウイルス感染症拡大予防に配慮した机椅子を導入します。現在は、大きな机に向かい合って座る状態であり、物理的にも感染リスクが高いことは明らかです。従って、可動式の机椅子を40脚配置することにより、感染リスクを回避するとともに自主学習に集中できる環境を整備します。あわせて、図書館のラーニング・コモンズ化をはかります。

⑩ 生徒の意見・保護者の思いを生かす学校経営

生徒会役員との面談を実施します。あわせて、3年生を対象にした面談を1学期末と2学期末の2回、今年度は実施を予定しています。

⑪ 検定試験にチャレンジする

昨年度、希望者に実施したきた漢字検定・英語検定は、引き続き、実施する方向で考えています。グローバル化が進む国際社会の中で、次代の日本を支える人間力豊かな人材を育てる礎となるものを涵養したいと考えています。

⑫ 泊をともなう行事の充実

平成30年度から宿泊行事検討委員会が発足し、明確なコンセプトに基づく宿泊行事を展開します。民泊を通した第一次産業体験、並びに自己管理と計画性を向上させる取り組みをはじめとした修学旅行を基本に複数のエージェントによるプレゼンテーションを実施します。今年度の3年修学旅行の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大の状況に応じて判断せざるを得ない状態であり、修学旅行の実施については極めて流動的です。

⑬ 学校紹介DVDの作成

昨年度に続き、本校の教育活動が短時間で具体的に理解していただける内容で作成を考えています。

※ 確認事項

- Ⓐ いじめ・不登校の対応については、カウンセリング・マインドを大切にし、組織的に対応します。
- Ⓑ 今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大予防に配慮しながら、「プレイヤーズ・ファースト」に基づく部活動方針に従い、部活動に取り組んでいくことが不可欠です。

**最も生徒を大切にする学校であり**

**『感動と笑顔あふれる』学校づくりをめざして**